| 平成20年度　第15回練馬区介護保険運営協議会　会議要録 | |
|---|---|
| 1　日時 | 平成21年３月27日（金）　午前10時から12時まで |
| 2　場所 | 練馬区役所　本庁舎５階　庁議室 |
| 3　出席者 | （委員　17名）<br>足立会長代理、岩月委員、小川委員、護守委員、堀田委員、目崎委員、山口委員、小池委員、大村委員、中川委員、増田委員、海老根委員、尾方委員、瀬戸口委員、永野委員、中村委員、福井委員<br>（区幹事10名）<br>区長、福祉部長、地域福祉課長、高齢社会対策課長、介護保険課長、在宅支援課長、大泉総合福祉事務所長　ほか事務局３名 |
| 4　傍聴者 | ０名 |
| 5　議 題 | 1　第４期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険計画の策定について<br>2　第４期介護保険事業計画における地域包括支援センター支所増設について<br>3　その他<br>(1)　練馬区地域包括支援センターの呼称について<br>(2)　介護保険について（２月末）<br>(3)　練馬区認知症徘徊SOSネットワーク「模擬訓練ダイジェスト版」について |
| 6　配付資料 | 当日配付資料<br>(1)　資料１　第４期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険計画の策定について<br>(2)　資料２　第４期介護保険事業計画における地域包括支援センター支所増設について<br>(3)　資料３　練馬区地域包括支援センターの呼称について<br>(4)　資料４　介護保険について（２月末現在）について<br>(5)　その他<br>・第４期平成 21 年～23 年度（2009～2011 年度）練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(冊子)<br>・座席表<br>・練馬区介護保険運営協議会委員名簿 |
| 7　事務局 | 練馬区健康福祉事業本部福祉部高齢社会対策課計画係<br>℡　03-3993-1111（代表） |

## ■　会議の概要

（会長代理）
　事務局から委員の出席状況および傍聴の状況をお願いする。
（事務局）
　【委員の出席状況および傍聴の状況の報告】
（会長代理）
　今回が最後の第３期介護保険運営協議会となる。本日は会長が都合により欠席のため、会長代理が進行させていただく。
（事務局）
　【配付資料の確認】

### １　第４期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険計画の策定について

（高齢社会対策課長）
　【資料１に基づき、第４期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険計画の策定についての説明】
（介護保険課長）
　【計画書に基づき、第４期の介護保険料についての説明】
（会長代理）
　最後に詳しく説明いただいた介護保険料の設定については、前回の会議で検討されたことなので、記憶に新しいと思う。ご理解いただけたかと思う。

### ２　第４期介護保険事業計画における地域包括支援センター支所増設について

（在宅支援課長）
　【資料２に基づき、第４期介護保険事業計画における地域包括支援センター支所増設についての説明】
（会長代理）
　地域の人口等の規模と、必要な施設の整備量とのバランスは非常に難しい問題である。地域の住民として、どこに不都合があったのか、十分承知の上で話を聞いていたのではないかと思うが、何か意見があればお願いする。
（委員）
　いま自分がいる施設は、今まで管轄の地域包括支援センターは、大泉だったが、今度は石神井になる。関係づくりに努力をしてきたが、大泉地域との関係がなくなり、石神井地域としてやっていかなくてはならない。いままでの地域での関係づくりが活かされない、関係がなくなってしまう地域割りは理解がし難い。そのあたりを説明していただければと思う。
（在宅支援課長）
　いま言われた問題は他の地域でも言われているが、大泉支所地域で特に言われている。

一番大きな問題は、いままで関係づくりをしてきたところを地域分けすることによって、それまでの関係が失われるのではないかということである。地域の中で包括支援センターは地域づくりの拠点になる。ある時点で総合的にきちんとしなければならないということで、今回はこれを機会にきちんとした地域づくりをしていこうと動いている。そうした中で、支所の地域分けについてはこれからいろいろと意見が出てくるだろうから、調整を図っていく。意見を聞きながら考えていきたい。

**（会長代理）**

大変難しい問題である。もちろん区の努力だけでは不十分かと思うが、いまの質問と同じような気持ちをもっている人がたくさんいるだろう。この機会を一つの前進だと捉えてもらい、機会がある毎にこのあたりの調整を念頭に置きながら、さまざまな計画を進めるということでご了承いただきたい。

**（福祉部長）**

非常に悩んだ。これでいいとはまだ思っていない。ポイントをおきたかったのは本所と支所の関係をきちんとしていった方がよいということ。石神井の網掛けのところでもう一つ支所があればよかったが、法人に働きかけてもなかなか難しいところがあった。今後更に新しい支所ができれば、もう一度区域割りをさせてくださいということがあるかもしれない。ただ、平成 18 年度から地域包括支援センターができて、最初は福祉事務所単位の４箇所でしていて、やりきれないということで平成 19 年度になって、本来であれば本所支所体制をとるのであれば一括になることが一番連携をとれるだろうが、そうではない形でしてきた。やむを得ない処置ではある。するのであれば第４期計画の初めにしなくては混乱するだろうということで行った。場合によっては、民間ではなく、新しく区が開設や改修するところがあってスペースができれば、積極的に新しいところをつくっていこうということがあるかもしれない。

**（会長代理）**

区として現時点で最大限できる努力の賜物ということで理解していただきたい。

**（委員）**

区民からするとどこに何の話を持ち込んだらいいのかということしかない。最初に相談するときに区民がどこにどういったらよいかというのを明確に広めていただければと思う。区民にどのように情報を広げていくのか。区民がわかりやすい、使い勝手がよいようにしていただければと思う。

**（会長代理）**

これから PR の方法など、どういう場所で行うかという検討して、実践いただければと思う。意見として受けておく。

**（福祉部長）**

呼称の話についてこの後説明させていただく。呼称ができたことによって、本所と支所が連携した名称になったので、後ほど説明させていただければと思う。

３　その他

**(1)　練馬区地域包括支援センターの呼称について**

**（在宅支援課長）**

【資料２に基づき、練馬区地域包括支援センターの呼称についての説明】

**（会長代理）**

呼称は決定事項として「高齢者相談支援センター」になるということで承知いただければと思う。できるだけ区民に周知していくための努力は区でしていただけるということで、多くの関係者や高齢者の意見を取り入れられた点で評価できる。今後似たような名称が出てきて、まぎらわしくなるかもしれないが、その時はまた検討していただければと思う。

**(2)　介護保険について（２月末）**

**（介護保険課長）**

【資料４に基づき、介護保険についての説明】

**（会長代理）**

75 歳以上の方は 615 人増になっているにもかかわらず、第一号被保険者が 0.3%減というのは何か意味があるのか。

**（介護保険課長）**

第一号被保険者が 0.3%減だが、要介護者の状況ということで、75 歳以上の方は人口は増えているが、要介護者が減ったということ。よい方向に解釈すれば、健康な区民の方が増えたということになるのかと思う。

**（会長代理）**

今後 75 歳以上と 75 歳未満の方の人口が逆転するということになるので、元気な高齢者をつくっていくというのがこれから非常に重要になると思う。

**(3)　練馬区認知症徘徊SOSネットワーク「模擬訓練ダイジェスト版」について**

【練馬区認知症徘徊 SOS ネットワーク「模擬訓練ダイジェスト版」の上映】

**委員挨拶**

（委員）

社会福祉協議会から参加している。今のビデオも明日はわが身と思ってごらんいただけたと思う。

（委員）

これから本当に介護保険で介護してもらえるだろうかと疑問を投げかけられる。今までの経過を聞かせていただき、区でも高齢者介護に積極的に取り組んでいることが分かって安心している。

（委員）

名称が変わって一番安心した。副会長が脳梗塞で倒れ、そのお子さんが一人残され、手続きがわからず、私がこの委員会に出ているにもかかわらず、地域包括支援センタ

ーに行けばいいということが分からなく迷ったことがある。認知症対策の関係でも都の委員会にも出ていたが、まだ実感として分かっていなかったという反省がある。

老人クラブ会員の方で２４時間徘徊の方の介護をしているため、夜、風呂に入る暇もないという方がおり、代わりをしてあげようと思っても本人が嫌がる。私達も身近に感じてやらないといけない。

(委員)

居宅介護支援事業所でケアマネジャーをしている。大変勉強になった。今後の業務に活かしていきたい。

(委員)

この委員会で区の（施策の）考え方、区民の考え方を知る貴重な機会をいただけた。民間介護事業所の立場だったが、われわれが区内の在宅介護でやれることが多いと感じた。これからも頑張っていきたい。

(委員)

いろんな立場の意見をお聞きして大変勉強になった。

(委員)

３０年前に大学を卒業して、都の老人医療センターにいたが、センターには認知症の方はあまりいらっしゃらなかった。通所できる方は、症状が軽度であるということだと思う。練馬で開業して介護老人保健施設を運営して、認知症の方が多いのにびっくりした。認知症は地域で支えなければどうにもならないと実感している。この運営協議会でも大変勉強になった。

(委員)

第２期の時に比べて、第３期は現場の声を伝えることができた。人材確保についてはさっそく就職面接会を開いていただき、お礼を申し上げる。

今後お願いしたいのは、認知症の方が合併症を伴ったときの受け入れ先が本当にないので、お力をいただければと思う。

(委員)

組合の現場は、年齢が高くないので、介護をされている方もいるが、身に詰まされた介護というのを感じていないのが現実。お金を集めて国にわたさなければいけない、という余分な仕事を負わされている、というのが現場のかなり大きな認識だ。

ただ、一般保険料と介護保険料が別枠で徴収できる仕組みになったので、かえって身に詰まされた問題として考えていない。一般保険料のなかで介護保険料をまかなわなければいけないとなってくると、かなり重要な問題だという方向に動くのだろうが。

仲間内で介護の事業の状況や実態がどうなっているかが話題に出てくることが意外とない。そういう意味で現場の方のご意見を聞く機会がいただけたのは、非常にありがたい。今後、こういう機会を生かしていける方向で、仲間内で議論していきたいと思っている。いろいろ勉強させていただいた。

(委員)

住んでいる周りの方々が高齢になっていくことにどう関わったらいいか。道で会ったときに挨拶できる、徘徊されていてもお家に送り届けられる。おとしより達が元気

なうちに、元気な生活を続けてもらえるような、事業者の方たちのところに行く前に少しでもそこで足踏みができる、なるべく元気な生活を続けてもらえるよう、パイプ役を少しずつやっている。

１週間に1回、小さな喫茶店をやっていて、そこまで来られるようになったら仲間でお家まで送っていく、地域の人たちが地域の中で守っていく、若い人もおとしよりも一緒になってやっていくのは重要なことだと思う。今回参加させていただき、いろんな意味で勉強になった。これを力にしながら続けていきたい。

(委員)

２０代の頃から福祉の現場に携わり、今も大学や専門学校で講師をしているが、ここに出席していろいろ学んだことは、私の体験と福祉の動き、現状、それらをつき合わせて考えてみたときに、地域包括支援センターの話が出ているが、居宅介護支援事業所の充実をもっと身近に、と考えさせられている。一番身近で相談しやすいところを考慮いただきたい。現場にいたときは充実していなくて問題があったが。それと最近施設で実習させていただきいい経験をしている。

利用者の実態はもっと深刻、職員の動きも大変であることを学んでいる。議論する前に現場の体験をもっとしていただきたい。

(委員)

練馬区は介護保険の充実、拡充に関心をお持ちになって、それを公にして介護保険制度のいい意味での反映をされていることに敬意を評させていただく。

医療保険制度と介護保険制度はなくてはならないが、特に介護保険制度は、急激な高齢化の中で玉成（ぎょくせい）にいたる道のりは厳しく、改正の都度、猫の目のように内容が変わっている。一般の方の意見を広く聞かれ集約、国にアピールすることは制度玉成に近づけるために大事なことだと思う。公募委員として参加させていただき、いい勉強をさせていただいた。

(委員)

夫が倒れて、介護する立場からこの会議に参加させていただいた。訪問介護、デイサービス、福祉用具を利用している。夫が転倒することが増えた。私一人では起き上がられることができないが、介護保険で緊急対応していただけるようになり、さっそくヘルパーさんが来てくれて助かっている。

利用者の立場でもこの会議に参加して、なかなかむすかしいと思うので、もっとわかりやすく伝わっていくとよいと思う。

(委員)

３年間があっという間に過ぎた気分だ。公募区民を多く入れていただき、かついろいろなことに対してパブリックコメントも実施していただき、区民のことを考えてくださっているのはありがたいと思った。

それに比べて区民の方の関心がまだまだなのかよくわからないが、区民は、自分にとって何が利用でき、何が利用できないのか、介護保険のことがよくわからないという戸惑いがあり、区と区民がかみ合っていないのではないかと感じることがある。

区民にとって、まず何処に行ってどうしたらいいか、何をすぐ相談できたらいいか、

高齢者相談センターができたが、すぐたどりつけるようにしていただければ、区民の不安が解消されるのではないかと期待している。

介護者は色々なことをわかっていても、孤立したり不安になったりする。自分の母の認知症が進むにつれて、介護者は知らず知らずのうちに、追い込まれていると感じるときがある。そういう人のために、ご近所の地域力というか、声かけだけでも大きいのではないかと思う。

いま全国で、介護にまつわる様々な問題が起きているが、練馬区でも様々な問題があると思う。区は、区民の側に立ち、様々な事に一層関心を傾け、様々な施策を考えて、区民の助けになっていただければ大変ありがたいと考える。

最後にこの３年間のお礼を申し上げる。

（委員）

７年半前に倒れ、７年間介護保険に助けられてきている。参加させていただいていて、大勢の方に支えられていることを感じた。そのことをみんなに伝えていきたい。

（委員）

私は途中からの参加でしたが、介護保険のもとで運営努力するだけではどうしようもないことも多いので、保険者である区の方々の動き、情勢などもかんがみながら、利用者の方の意見も直接伺えて、施設に戻ってからの参考にさせていただくことが多々あり、よかったと思っている。今後も自分たちで事業運営していければと思っている。今後とも、よろしくお願いする。

**練馬区長挨拶**

**（練馬区長）**

介護保険制度は平成 12 年の開始から９年が経過し、今ではおおよそ定着したと思う。

しかし、サービス利用が増えてきたこともあり、財政の面で継続できるのかという危惧も一部ある。

また、高齢者の増加、一人ぐらし、夫婦二人だけの高齢者世帯というのも増えている。

認知症の方も非常に多くなってきたこともあり、こうした方々への対応が非常に重要になるのかと思う。

その中で第４期計画を策定するにあたり、皆様からの貴重な意見を取りまとめた答申を、先日、会長からいただいた。いただいた答申を元に、新たな計画に取り組んでいきたい。第４期計画では取り込むべき大きな課題が９つある。そのうち６つは、皆様からの答申の趣旨を取り入れることによって設定されたものだ。

練馬区の高齢者・要介護者が、地域の中で平穏に暮らせることをモットーに、これからも尽力していきたいと考えている。

会長代理挨拶

**（会長代理）**

会長は高齢者福祉の優れた研究者、教育者であるが、私はどちらかというと現場での実践が中心で、長い間行政にもいた。行政の中での様々な企画部門での苦労というのを見てきているので、この場にいてもどれだけ苦労した結果として提案されている事案なのかということもわかりつつ、一住民として、また一保健師として、様々経験したことをかんがみながら意見を伺うという立場にあった。練馬区介護保険運営協議会が非常に民主的に運営されたということに敬意を示したい。

今後はできれば、居住地で公募委員として介護運営協議会に参加したいと思っている。この３年間の体験を活かしつつ、住民の立場から、また当事者として介護保険制度がいい形に進むように、これからも発言していきたいと思う。

閉会

**（会長代理）**

これで第３期の会議を終了する。